

大滝人事労務研究所便り

今年の新入社員は「ETC型」？

「効率重視」で「コミュニケーション苦手」

公益財団法人日本生産性本部の「職業のあり方研究会」が毎年決定している新入社員のタイプ名について、平成22年度の新入社員のタイプは「ETC型」と発表されました。

効率化を重視する一方で、人とのコミュニケーションが苦手な面があることから、高速道路を利用する際に料金所で停止することなく通過できるシステムの「ETC」になぞらえたとのこと。

上手に人材を育成するには

同研究会によると、厳しい就職戦線をくぐり抜けてきた今年の新入社員は、携帯電話などのIT活用に長け、情報交換についても積極的と言われており、時間の使い方も効率的で物事をスムーズに進める特徴があるそうです。また、CO2排出量削減など環境問題への関心も高い傾向があります。

しかし、ドライバーと徴収員との対話がなくなったように、効率性を重視するあまり人との直接的なコミュニケーションが不足する面もあります。打ち解けて心を開くまで時間が掛かるため、性急に関係を築こうとすると直前まで「心のバー」が開かないため、上司や先輩は「スピードの出し過ぎ」に注意する必要があります。

ただし、理解しようとするれば、仕事のスマートさやIT活用の器用さなどのメリットも徐々に見えてくるため、ゆとりを持って接し、長く活躍できるよううまく育てることが重要になるとのことです。

今後の就職環境は？

昨年は、世界金融危機以降の先行き不透明感から採用に慎重な企業が目立ち、特に学生に人気の業種では採用



を減らす企業が多く、就職活動が難航した学生が多かったと言われています。

最近では、やや景気が持ち直した感もありますが、まだまだ不透明な部分も多く、学生にとってもしばらく厳しい状況が続きそうです。

仕事時間の減少で従業員の満足度はどう変化する？

「ワーク・ライフ・バランス」の認知度は？

内閣府では、昨年12月、全国の20歳以上60歳未満の男女2,500名を対象として、「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」（以下、「WLB」）に関するアンケート調査を実施しました。

それによると、WLBの認知度（WLBについて言葉も内容も知っている人の割合）は、前回調査より増加したものの18.9%にとどまっています。WLBという言葉聞いたことがある人の割合は全体の54.3%でした。

仕事時間の増減について

1年前と比較して仕事の時間が増えた人の割合は27.7%、減った人の割合は22.8%でした。増えた理由としては「採用減・人員整理等による業務のしわ寄せ」（35.0%）、減った理由としては

「経済情勢の悪化による業務量の減少」(57.3%)が最も多くありました。

仕事の時間が減った人は、代わりに「家族団らん等の家庭生活」、「家族のために行う家事、育児、介護・看護等」など、家族との時間を増やした人が多くいました。

仕事時間の減少による影響

仕事の時間が減った人のうち約6割は、生活全般の満足度が低下しています。この背景には、仕事時間の減少による収入の減少があると指摘されています。

これに対し、仕事の時間が減った人でも、「組織全体として」「自ら努力して」など、主体的な要因(自らの努力)で労働時間の短縮に取り組んだ人については、経済情勢の影響で仕事の時間が減少した人よりも生活満足度が高くなっています。

モチベーションの維持が重要

不況下においては、労働時間の削減、いわゆる「ダラダラ残業」の削減などに取り組む企業が増えているものと思われます。

企業としては、従業員個々人の労働時間を上手に調整・管理しつつ、「仕事の減少・収入の減少」がそのまま「従業員のモチベーション低下」に繋がらないような工夫が必要とされます。

トピックス

健康診断で「うつ病検査」を義務化へ

厚生労働省は、労働安全衛生法を改正し、企業などが実施する健康診断で精神疾患に関する検査を義務付ける方針を明らかにした。同省の「自殺・うつ病等対策プロジェクトチーム」がまとめる提言に盛り込む予定で、2011年度からの実施を目指すとしている。2008年度のうつ病を含む精神障害などの労災請求件数は927件、認定件数は269件。

当事務所よりひとこと

最近、未払い残業代をめぐる民事訴訟に関する報道が相次いでなされています。いずれも社員や元社員が、未払いの残業代があるとして会社に対して請求を行っているものです。裁判まではいかないにしても、労基署は、不当解雇された等の労働者の主張に関しては、民事不介入により会社に指導に入るとは余程のことがないかぎりありませんが、未払い残業代のトラブルに関しては、労働基準法違反の刑事罰があり、比較的証拠の収集も簡単ですので会社に対し是正指導が入ると考えた方が良いでしょう。(大滝)

少し古い新聞のエッセイですが、世界的な数学者の岡潔が1965年6月、毎日新聞の連載「春風夏雨」の中で「私は人と言うものが何よりも大切だと思っている。私たちの国というものはこの人という水滴を集めた水槽のようなもので、水は絶えず流れいり流れ出ている。これが国の本体といえる。ここに澄んだ水が流れ込めば水槽の水は段々と澄み、濁った水が流れ込めば水全体が段々濁っていく。どんな人が生まれるかということ、それをどう育てるかということが何よりも重要な問題となる・・・後略・・・」岡潔は子供の教育がとても大切だとこの後結んでいるのですが、企業にとっても人材の教育は大変重要なことだと私は考えています。ネクストインターセクションの研修は第4回より講師による知識のインプットと参加者全員に考えてもらうグループ討議を行っており大変好評を頂いております。第5回の研修では「ハラスメント」の問題を取り上げました。企業の「経営者」「管理監督者」「派遣スタッフ」その他もっとたくさんの方がこの研修に参加して頂ければ、企業内も段々澄んでくるのにと強く感じた研修でした。(馬場)